

《婚活・妊活に向けて、感染症をチェックしましょう 2020》

ブライダルチェックというと性感染症の検査が中心です。もちろんそれも大切ですが、子どもを授かった時に、そして出産に際して準備しておきたいより大切なことがあります。2007年に麻疹流行があり、さらに2013年の風疹の全国的な流行で先天性風疹症候群が多発しました。その後成人の感染症に注目が集まり成人男性を対象に風疹5期が始まっています。さらに先進国及び国内でも百日咳の流行が注目されてきています。

妊娠中の女性が罹患して困る感染症と、出産後に気をつけなければいけない感染症について考えます。まず風疹は妊娠初期に、水痘は出産直前に罹患すると胎児への重大な影響が心配です。一方麻疹とおたふくかぜは胎児への直接の影響は不明ですが、妊婦が罹患すればより重症になり易く、流産の危険性を高めるかも知れません。男性はパートナーへ濃厚感染させないためにも同様のチェックと追加接種が推奨されます。もちろんきちんと免疫が残っていればその心配はありません。妊娠前には麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘の抗体検査で免疫を確認して、不足分を急いで追加接種して、その6週間後には陽転を確認することが大切です。これらの生ワクチンは妊娠中には接種できませんし、事前接種も風疹は8週間、他は4週間の避妊期間が必要になりますからしっかり準備しましょう。

妊娠後の妊婦健診で風疹が陰性でも手遅れです。しかもそれ以外は検査もしてくれません。

また新生児や乳児に感染させてはいけない病気として百日咳があります。この世代の成人はその免疫がほとんどありませんし、中学生以上で下がり切っていることが知られています。学生や成人では百日咳に罹患しても軽い咳が続く程度ですが、免疫の不十分な乳児が感染すると呼吸困難など重症化して入院治療が必要になります。家族も新生児に対面するまでには百日咳の免疫を高めておきましょう。乳幼児期に4回のDPT3種混合〔ジフテリア・百日咳・破傷風〕を接種していますが、5～10年ほどで免疫が下がってきます。今回、DPTで1回追加すれば予防効果をさらに10年ほど高めることができるので安心です。従来で有効なDPTが再開されていますから遅れないように追加しましょう。

『婚活、妊活に向けて準備することは、麻疹・風疹・おたふくかぜ・水痘の抗体検査と一緒にDPT3種混合を接種する』ことです。抗体検査は適切な検査法を指定してください。麻疹はPA法で256倍以上、風疹はHI法で女性は32（～64）倍以上、男性は16倍以上、おたふくかぜはEIAIGG法で5.0以上、水痘はEIAIGG法で4.0以上、を安心できる陽性基準と考えています。これらの検査方法なら4～5日で結果が判りますから、DPTの接種から1週間後には検査で不足分を追加することができます。検査をしないでMRワクチンを接種しても、その6週間後に抗体検査で陽性を確認するまで安心できませんし、免疫があれば全く無駄な接種になります。MRワクチンは2回接種しても20%程度は免疫ができていません。2018年に当センターで調査した20歳代の成人375人の検査で麻疹は20%、風疹は男性25%、女性40%、おたふくかぜは50%、水痘は8%が陰性でした。先に適切に検査できれば無駄な接種を避け、それに伴う無駄な出費と無用の避妊期間を防げますからより安全で有利です。追加接種6週間以降での陽転確認検査を忘れないでください。女性は妊娠前にはDPTと麻疹風疹おたふく水痘の抗体検査を、ご主人やパートナーは彼女の妊娠が分かってからでも遅くはないので、同様の追加接種と検査をして適切に対応してください。新生児に面会する祖父母や兄弟や同居家族なども忘れないで準備してください。罹患すればパートナーや家族に濃厚感染させますし、そして会社や社会で感染拡大させないためにも同様に注意が必要です。